

私の日常生活：住について

ヴォクマ・ジョセリン（ブルキナファソ）

私はブルキナファソの首都、ワガドゥーグーという都市に住んでいます。

首都であるため、国内各地の多様な職業の人びとと出会うことができます。ワガドゥーグーは行政上、バスキュイ、ボゴドゴ、ブルミウグ、ノングルマッソム、シグノガンの5地区に分かれています。各地区のトップには地区長がいて、うち一人は女性です。私が住んでいるのはノングルマッソム地区です。大きな医療センターが5カ所あり、国立（1）、非政府組織による経営（3）、私立（1）となっています。各地区はさらに区に分かれており、ノングルマッソム地区には、タンガン、ソムガンド、ゾゴナ、トゥドゥエゴ、コソド、ニオコの各区があります。

私が住んでいるのはソムガンド区です。この区には、男性の地区長のほかに、ナーバ・カンゴという名前の伝統首長もいます。この首長の役割は、古来の手法を用いて、現代的な当局者を補佐し、問題を解決することです。区には公立学校が2校と、複数の私立学校があります。公立学校はソムガンドA校、ソムガンドB校、ソムガンドC校と呼ばれています。また、市場とビジネスセンターが各1カ所あって、あらゆるものが販売されています。ソムガンドは発展しつつある区で、ワガドゥーグー経済の中心のひとつです。国立工科大学、社会科学研究所といった高等教育研究施設もあります。

ノングルマッソム地区には、ブルキナファソで有名なホテルの一つ、ホテル・メルキュール・シルマンドがあります。また、国立保護公園パーク・バングルウェオゴもあります。この公園は動植物の種類が豊富で、動植物相の自然研究室となっており、環境保護体験のための校外学習によく利用されています。ソムガンド区には、児童が遊べる公園があります。パーク・バングルウェオゴの近くにあるファソ公園です。ファソ公園とは共和国公園という意味で、バングルウェオゴは「知識の公園」を意味します。親子でファソ公園に行くのは家族の楽しみのひとつです。週末や、クリスマス、国際婦人デー、アフリカの子どもの日、イスラム教の重要祈祷日などには、子どものためのコンサートが開催され、そういった時は特に多くの家族が足を運びます。そのほか、貧困者、女性、若者、病人などの支援を目的とした社会センターもあります。

ノングルマッソム地区には、公営事務所や民間企業もあります。ソムガンド区の住民には、区内で働く者もあれば、区外に働きに出る者もあり、中には、遠隔地で仕事する者もいます。ワガドゥーグーの交通事情が悪化してきたため、政府が道路建設の大プロジェクトに着手しました。そのため交通事情は改善されつつあります。政府による国土開発事業が功を奏し、今日では、ソムガンドから区外へ出るにしても、複数の道路が開通しており、人びとは最短の行路を選択することで時間の節約ができるようになりました。ブルキナファソ最大の大学があるのも、ノングルマッソム地区です。

ソムガンド区では、街路沿いに食べ物が売られています。男性が肉や鶏を焼き、女性は

料理したり、ケーキ、米、サツマイモ、ピーナッツ、果物、野菜、今風の飲み物や土地の飲み物などを売ったりしています。一般に、人びとは仲良く暮らしており、クリスマスなど大切な日には食べ物の交換をするなど、近所同士の付き合いを大切にしています。イスラム教徒とキリスト教徒も招待し合います。市議会によって若者向けのスポーツ・センターやスポーツ場も建設されました。学校に通学していない若者の多くは、理容美容師や、駐車場や小さな商店での仕事、自動車整備士、洋裁師、運転手、整備員などを行っています。

ノングルマッサム地区の人口は22万891人で、その49%が女性、35%が若者です。ワガドゥーグーの工業地区は、ノングルマッサム地区内のコソド区にあります。皮革、鉄、フォームラバー・マットレスの産業があります。また、ワガドゥーグーの家畜市場もノングルマッサム地区内のタンガン区にあります。人びとは自由に生き、したいことをしています。ノングルマッサム地区の大きな特徴は、経済的な選択肢がいろいろある点です。市民の情報通信能力向上のために、コソド区に民間企業によるテレビ局「TVZ」が開設されました。開局日には総理大臣が列席するなど、ブルキナファソ開発のあらゆる面に対する政府の強い責任感が感じられます。



△ワガドゥーグー市議会の建物



△ソムガンドの路上でサッカーをする少年達